

宿縁

九月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号
浄土真宗
本願寺派
中原寺
TEL 0477-372102
FAX 0477-372102

伝えるいのちの

バトンタッチ



「終活(しゅうかつ)」という言葉が盛んに使われるようになりました。長寿の時代となり映画「エンディングノート」(2011年)が公開されてから一躍話題になっています。終活とは、人間が自らの死を意識して、人生の最期を迎えるにあたって執る様々な準備や、そこに向けた人生の総括を意味する新しい言葉です。さらに言えば、残りの人生をよりよく生きるため、葬儀や墓、遺言や遺産相続などを元気なうちに考えて準備するということでしょうか。

みなさんはどうお思いですか？

ご意見はいろいろあるかもしれません。自分の人生の終末のため、慌てぬように、迷惑がからないように、逝くもの跡を濁さないように、どれも大切なことかもしれません。

しかしどの意見も心地よいように聞こえますがちよっとしっくりこないものがあるのも否めません。

カウントダウン。つまり、5, 4, 3, 2, 1, 0という残りの時間を数える大合唱の光景は、本来日本にはなかったように思います。そこには過ぎ去ることへの淋しさがついて回って、生まれるのも終わるのも人間の自我意識が過剰に反映している気がしてなりません。

人間として生まれたことも、死を迎えることも不可思議な世界からいただいた因縁ごとであるはずだ積尊は教えます。

たとえば、大海に起こる大波小波は大海を離れて起こるものではなく、波が消えるのもどこかに行ってしまうのではなく、大海から生まれ大海に還るようなものです。

水はいのちの源、すべてのものを生かしあらゆる存在を包んでいる普遍的なものと考えられます。

人生無常から抜け出られない生命観からすれば、生まれたら死ぬという直線的考えしか出てきませんが、始めなければ終わ

りもない永遠の真理を説く仏教は円環的です。円はどこが始まりでどこが終わりか分からないでしょう。つまり、どこまでも前向きな生ということが、仏教的な生き方です。後ろを振り返るひまがない、昔はこうだったのにとか、昔は良かったのという回顧癖が生まれるのは、直線的な生き方の執われから離れられないからです。徹底的に前向きということは、老いと歩調を合わせて前に行くことです。だから、足腰が痛いのは当たり前だし、ちよっと物忘れをするのも当たり前、老いという現実と歩調を合わせて行く。ところが、自分はまだまだ若いと思うと、老いの方が先に進みますから、現実の自分は置いてきぼりになります。病気になるっても、昔は達者だったのにと思うと後ろ向きになります。病気になるのなら、その病気と一緒に、病気が前に進んでいくのと同じように、自分も前に進むことになれば、ある意味で病気はないのでしょう。あるいは、老いはないのだと思います。

現代人はどこまでも人間の思考で物事を判断し解決しようと思えますから固定的になってしまいます。けれども少し柔らかく考えてみると、仏教で教える言葉には実に深い意味を示唆していることに気づかされることでしょうか。

浄土真宗で平易な經典として普段から読誦される『正信偈』の冒頭には、「帰命無量寿如来(きみょうむりょうじゆにょらい)」とあって、「無量寿」とは、無限の「いのち」という意味で、たんなる物質的量を意味しているのではなく、はかりなき「いのち」の生成能力を指すとも言えます。

その本来の「いのち」の場を「浄土」と表現します。どこまでも前向きな「いのち」のありようを示すと言っても良いでしょう。だから浄土は終着点ではありません。浄土へ往つたらそこでおしまいかというと、そうではありません。 「いのち」の生成能力が発揮される場は、そこに止まっているのではなく、絶えず、人間の能力に閉じ込められているこの人間界(娑婆世界)に還つてくるという「還相(げんそう)」のはたらきに転回するところに、仏教的生の徹底的な前向きさがあるのです。浄土へ生まれたらもう永遠の休息だとなつたら、それは真の前向きではありません。

この本来の「いのち」に目覚めるのは浄土へ往つてからではなく、今ここで、いのちの永遠性に深く肯かされた瞬間からその歩みに乗せられるということです。

大乘(だいじよう)仏教といわれる真髄はここにあります。

親鸞聖人は阿弥陀仏の本願念仏より賜る大功德は、限りある身が無限の生に転回されることを伝えるのが、人の身をいたしたい使命だと次のように示してくださいました。

「前(さき)に浄土に生れんものは後(のち)を導き、後(のち)に生れんひとは前(さき)を訪(とぶら)へ、連続無窮(むぎゆう)にして、願わくは休止(くし)せざらしめんと欲(ほつ)す。無辺(むへん)の生死海(しじうかい)しょうじかい(を)尽(つ)さんがためのゆえなり」(道綽禪師の言葉)と。

伝えるべき大切な「いのち」のバトンタッチを抜きにして、昨今の「終活」の言葉に翻弄されていることを危惧しています。

【寄稿】

○オセアニアクルージングの旅

—渡部喬子さん—

真夏の日本から南半球に向って、今年1月8日横浜港を出港して、3月4日に帰港する「56日間オセアニア一周クルーズ」に乗船しました。乗船員約1,000名スタッフ約400名を乗せて約17,000マイルの旅でした。ゆったり気分、18〜20ノットでゆっくり進む、空を横切る早さとは違った趣がありました。56日間で13の港に寄港しました。寄港はオプショナルツアーで楽しみます。いろいろとツアーコースは用意されています。数ある中から興味のあるコースを自分で選択します。あれもこれもが出来ないのが残念でした。

2回目の寄港地バリ島は「神々の宿る島」と言われています。たしかに90%以上の島民がバリ島独自のヒンドゥー教を信仰しているようで、大変神秘に満ちた島でした。13全ての寄港地を楽しむことができたのはツアーのお蔭です。現地の添乗員の説明を聞きながら、その国の歴史や世界遺産としてその土地の風光明媚なスポット、現地の人達と肌でふれあいクルージングだからこそ味わえる貴重な体験をしました。

ピースポートは1983年に設立された(NGO)です。世界一周をはじめとする「国際交流の船旅」を企画しています。今回の航海は96回目オーシャンビュー「過去の戦争を見つめ未来の希望を創る」というスローガンを掲げてピースポートは航海しました。残り少なくなってきた2月22日、2月28日の寄港地ソロモン諸島最大の島「ガダル

カナル」激戦地「サイパン」「ラバウル」「硫黄島」血染の丘、ジャングル戦跡を訪ね歩き激戦地となった場に思いを馳せました。海は広がったです。雄大でした。海により国々はひとつに繋がっているのを実感しました。丸い地球を航海していると「国境」という「線」はどこにもありませんでした。

【寺灯雑記】

○仏婦「讃寿の会」を賑やかに催す

9/1 敬老月間にあたり、仏法お聴聞の下で、お互いの尊いいのちを讃えさせていただく「讃寿の会」に35名の会員が集いました。

まず本堂では、前住さんから浄土教伝道者の七高僧のうち、道綽禅師の「聖道門、浄土門」について法話があり、その後は聞法会館に移って昼食を共にしながら懇親の輪を広げました。会員による新舞踊や演歌、よさこい等が披露され、みんなが一つに睦みあつて楽しいひと時を過ごしました。

○教区仏婦連盟1泊研修会に参加

9/4〜5 東京教区内(1都8県)から142名の仏教婦人の参加を得て安房鴨川にて開催され、当寺から4名が出席しました。

ご講師は佐賀教区から田中信勝師の出講で「仏婦活動の源泉〜大慈大悲のこころ〜」をテーマとして、婦人会員とは、「三帰依(仏法僧)を理解した人。お釈迦さまに帰依し、その教え(お心)の世界に深く入り、念仏を喜ぶ友と共に歩む会が婦人会ですとのお

話でした。

翌日はお朝事後、前日に続き田中先生のお話です。法名(おかみそり)の大切さ、本山で受けるご門主様からの始めから終わりまでの説明をして下さり、まだ受けてられない方は、ぜひ、お受けくださいとのことでした。

その後、南荘宏師の歌唱指導があり「浄土真宗の救いのよるこび」(領解文)の歌を指導していただきました。心配された最強の台風でしたが何事もなく、他県の方々とのお話もでき、よい研修でした。(仏教婦人会 本間芳子さん報告)

○東京教区門徒総代研修会に出席

9/9 東京教区の門徒総代・世話人研修会が築地本願寺で開催されました。本願寺の第25代現門主の伝灯報告法要

でのご親教「念仏者の生き方」を中心に学びました。講師の山本政秀教務所長と熊原博文布教使から「お寺と門徒総代」、「門徒総代の方」についてお話を伺いました。

東京教区内の寺院数が460カ寺と言われる中、参加者は低調で約3割弱、千葉組では2割強というありさまでした。今回の研修を通し寺院活動の中核となる門徒総代の意識のなさを強く感ぜざるを得ませんでした。(門徒総代 錦織春海さん報告)

【九月の掲示板のことば】

どんなところにも 生かされていく道はある

【法要・法座・行事の案内】

☆秋の彼岸会法要

*九月二十三日(日) 午後一時

- ・ 仏説阿弥陀經
- ・ 法話 前任職「なぜ浄土は西方？」
- ・ 仏教讃歌「衆会」

長い夏の暑さが続いています。秋は学びの季節です。仏法を学び実りある人生を歩みましょう。ご参詣をお待ちしています。

☆第30回文化講演会

*十月二十日(土) 午後一時半開演

- ・ 講師：佐々木閑先生 (花園大学教授)
- ・ 演題：現代人のためのブツダの教え
- ・ 場所：山崎製パン企業年金会館

著書も多く、NHKの講座などで分かりやすく仏教を説いて評判の高い先生をお招きしました。お誘いあわせご来場ください

○和讃に学ぶ(正像末和讃の仏智疑惑讃)

*九月二十九日(土) 三時 前任職

○婦人会法座(源信和尚「往生要集」)

*十月六日(土) 一時

○門信徒会役員会

*十月六日(土) 三時半

○子育てサロン(パンダっ子)

*十月九日(火) 十一時〜二時

○いのちの居場所を考える会

*十月十六日(火) 十時